

JAFSA 中国学歴認証システムで変わる 中国人留学生へのビザ発給と大学の留学生戦略



留学生 30 万人計画達成の鍵をにぎるのは、現在も留学生の 6 割以上をしめる中国人留学生の動向であることに異論はないだろう。もっともこれまで中国からの留学生については、その学歴や卒業に関する証明書の真偽について、その判断が難しい状況が続き、入管のビザ発給率も非常に低いものとなっていた。この問題は長年関係者にとって頭痛の種となってきたわけだが、今回その種を取り除く処方箋となりうるのが、JAFSA（ジャフサ＝国際教育交流協議会）が開始する「中国学位・学歴認証システム登録制度」である。2006 年より（財）日本語教育振興協会（日振教）が日本語学校に提供してきたサービスを大学にも利用してもらおうというものだ。中国人留学生の数を倍増させる可能性を秘める本サービス提供開始を前に、当協会教育交流事業部長で JAFSA 中国認証評価検討プロジェクトのチームリーダーを務める白石勝己に、その概要について話を聞いた。

●まずシステムのことについて具体的に教えてください。

この認証システムは中国の認証機関である中国教育部学位与研究生教育发展中心（以下、CDGDC）から直接日本の大学に、卒業認証や学位認証、成績認証が送付されるというもので、中国の学位・学歴を効率的かつ確実に日本の各教育機関で確定できるようになります。

すでに（財）日本語教育振興協会が中国の教育部担当部局と交渉を進めて 2006 年から日

本語学校ではこの制度がスタートしていますが、入学時の学歴確認に加え、入管における在留資格認定審査でも非常に大きな成果を上げています。認証システムができる前の日本語学校では、一件ずつ卒業証書の発行大学に電話をして確認するということをしていました。また、中国で発行された様々な卒業証書を持ち寄って、どれが本物でどれが偽物か、真贋を見分けるスキルを身につける研究会も行われていましたが、そのような徒勞な作業が必要なくなったということです。

この日本語学校で行っていた制度を、今度は大学のほうでも利用してもらおうと言うことで、JAFSA を実施母体として大学をとりまとめ、CDGDC に日本語学校と同様に登録をして、直接学位認証を送ってもらうという制度です。

●大学のサービスにおいては JAFSA が日振教のような働きをするのでしょうか。

あくまで日本側の窓口は日振教で、JAFSA が取りまとめを行い日振教に CDGDC への登録をお願いすることになります。日本語学校と同じように、JAFSA で大学に登録コードをふり、CDGDC に通渡します。CDGDC はコード番号と学校名によって認証書類を大学等の登録先に送付するということです。

●今回大学の登録を始めるにあたって、追加・改良される点などはありますか。

日本語学校の場合は、高校の卒業証書と卒業試験、大学入学統一試験の成績の3つのみを認証していました。それを今回、高等教育・中等教育のほとんどすべてのレベルで中国側は認証の発行を行うという約束をしてくれました。つまり、職業高中とか、中等专业学校、技工学校まで卒業しているかどうか、学位を取得しているかどうかの認証ができるようになりました。

特に大学にとっては日本で修士課程、博士課程に留学する人たちも多いわけで、中国の大学本科の卒業、学位、修士課程の学位、博士課程の学位、さらに大学の成績も全て認証できるようにするという事です。日本の大



学はほとんど全ての中国の学歴書類について疑義を持つ必要がなくなるということです。

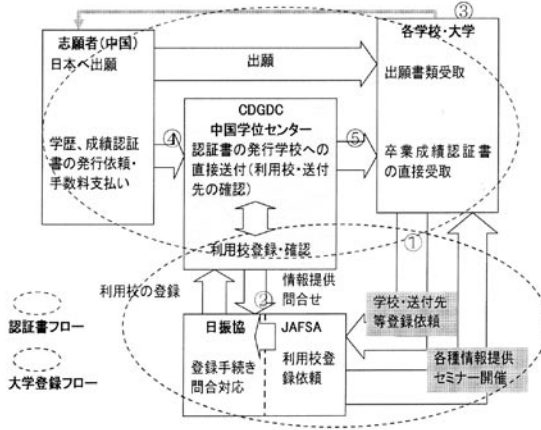
・対応する学位学歴認証

1. 中国高等学校（高中）の卒業試験成績（開考）認証
2. 中国高等学校（高中）卒業証明認証
3. 中国大学入試統一試験（高考）成績認証
4. 職業高中卒業認証、中等专业学校卒業認証、技工学校卒業認証
5. 中国の大学卒業、終了認証（大学本科、大学専科、修士、博士）
6. 中国の大学学位認証（学部、修士、博士）
7. 大学成績認証（学部、修士、博士）

●実際の登録についてですが、利用料を含めて教えてください。

JAFSA では初回の登録料6万円と年間の利用料として6万円を徴収します。送付先3登

【中国学歴認証システム フローチャート】



②・学はJAFSA-日振協を通じてCDGDCに認証送付先を登録します。

②CDGDCは各大学の登録番号を発行し、ホームページ上に大学名等を掲載します。CDGDCの登録を確認しJAFSAは大学に登録証を送付します。

③大学等は志願者に登録番号を提示し、学歴認証をCDGDCから大学へ直接送付するよう指示します。

④志願者(中国)はCDGDCへ出願大学等の登録番号を指定し、学歴等認証を直接送付するよう手数料を支払い依頼します。
認証手数料 中国語1通 210元
英語1通 260元

⑤CDGDCは志願者の申請により、学歴認証を指定された大学等へ送付します。

録まではこの金額内で行いますが、それ以上は1登録増えるたびに1万円を追加いただけます。大学の場合、キャンパスが異なるとか、学部、研究科によって試験制度が異なるということも考えられますので、複数の送付先を設定できるようにしました。この費用は、100大学くらいが参加してくればシステムの維持ができるのではと考えて設定したものです。ただ単に認証を送付するサービスを行うだけでなく、例えば中国から担当者に来てもらい、登録大学を対象にセミナーをやってもらおうといったことも考えています。

●認証を依頼する留学生もCDGDCに対して手数料を支払うのでしょうか。

学生はインターネットを通じて認証書の発行を依頼しますが、CDGDCに対して1件につき260元(約4000円)を支払わなければなりません。これは留学生の負担につながるの

で、合格した人についてのみ送付させるとか、大学が費用を負担して送付することはできるかなどの要望があります。その場合はどうやって決済をするかという点で若干技術的な問題が必要になってきます。現在のシステムでは、本人が卒業証明書や成績証明書をCDGDCに持ち込んで、認証を依頼しなければなりません。日本と中国ではプライバシーについての考え方も異なりますので、今後ともいろいろな問題をどうクリアするかということ、また学生の金銭的負担をなるべく少なくするにはどうすればいいのかといったことを考えていく必要があるかと思います。

●これまで2年間このシステムを日本語学校が利用してきて、何か問題のようなものは出ていますか。

申請してから認証書が日本に届くまで20日

天津大学
Tianjin University
MASTER ACADEMY RECORD

姓名: [REDACTED]
学号: [REDACTED]
院系: [REDACTED]
专业: [REDACTED]
入学日期: [REDACTED]
指导教师: [REDACTED]

课程	学分	成绩	课程	学分	成绩
现代管理学	2.0	80	Modern Management	2.0	80
现代管理决策	2.0	80	Management Technique of Marketing & Advertisement	2.0	80
国际商务谈判(双语教学)(选修课)	2.0	80	The Principles of INTM	2.0	80
英语综合	2.0	80	Academic Report	2.0	80
哲学与马克思主义(选修课)(选修课)	2.0	80	History of Marxism Philosophy of Science and Technology	2.0	80
计算机技术及应用基础	2.0	80	The Foundation of Computer Technology and Application Design	2.0	80
英语阅读	2.0	80	Reading in English	2.0	80
英语听力	2.0	80	Listening, Writing and Speaking	2.0	80
英语综合考核	2.0	80	English Proficiency Examinations	2.0	80
英语听力	2.0	80	Translation & Oral Examinations	2.0	80
英语听力	2.0	80	Field Examinations	2.0	80
国际商务谈判(选修课)	2.0	80	Senior Development of Material & Mining Theory	2.0	80
英语综合	2.0	80	Numerical & Unit Transfer	2.0	80
国际商务谈判(选修课)	2.0	80	Health & Health Medicine	2.0	80
英语综合	2.0	80	Technology & Class Room Test	2.0	80
英语综合	2.0	80	English Examinations of Beijing Thesis	2.0	80
英语综合	2.0	80	Thesis	2.0	80

地址: 天津大学 11 号楼 213 室 电话: 2338 3333 传真: 2338 3333
E-mail: [REDACTED]
Tianjin University Graduate College (Official stamp)
2009-11-02

教育部学位与研究生教育发展中心
CHINA ACADEMIC DEGREE & GRADUATE
EDUCATION DEVELOPMENT CENTER

认证报告
CREDENTIALS REPORT

DATE: 2009-04-14
FILE NO. [REDACTED]
APPLICATION NO. [REDACTED]

TO WHOM IT MAY CONCERN:

This is to certify Ms. [REDACTED] (DOB: March [REDACTED]) Academic Records. Tianjin University / 天津大学 is recognized as higher education institution by the Ministry of Education of China. Ms. [REDACTED] has completed her master program in Tianjin University from 2003 to 2006, and she has passed the examinations in prescribed courses with qualified records.

The attachments are included in the credential.
NOTHING FOLLOWS

China Academic Degree & Graduate Education Development Center
教育部学位与研究生教育发展中心

認証例。左が大学発行の成績証明書。右が CDGDC 発行の認証書。割り印が捺してあり照合が可能

間かかるのですが、日本語学校の場合はビザの申請が厳しいだけでタイムリミットについてはそれほど厳しいわけではありません。しかし大学は受験のための出願書類として認証書を必要としますから、実際出願の締め切りに間に合うのかという不安はあります。ですから、なるべく受験で合格した人が提出する書類として、認証書を出してもらおうという形にすれば、学生も大学側も負担が少なくて済むのではないのでしょうか。これらのことは今後どのように利用していくのかというところで、しっかり考えていかなければいけないということです。

●日本語学校経由で大学に入学する場合もこれら認証書は必要とされるのでしょうか。

日本の日本語学校を経て大学に進学する場合

合は、一般的には既に日本語学校入学時点で認定を受けた学歴関係書類を提出しているはずですので、それで OK とするのか、あるいは大学受験時や合格時にもう一度認証書を提出するよう指示するのかという点は、各大学が実際にどう運用するかということになるでしょう。現在では日本語学校経由でなくても、大学院には多くの中国人学生が直接入学しています。大学院の修士課程に進学しようとする場合は、まず大学の指導教官に研究計画書などを送って、研究生として来日することが多いのですが、その時にきちんと学位・学歴の確認ができていのかどうか問題です。

●研究生であればビザが比較的簡単におりるということでしょうか。

研究生で入る場合は、ほとんどの場合試験

が必要というわけではありません。書類だけで研究生になり、その後修士課程に入学するための試験を受けるわけです。ある意味、大学院は直接入学許可と言えますし、研究生の期間が修士課程や博士課程の準備期間の役割を果たしているわけです。研究生としての入学を許可するのは、指導教官が研究室ごと、研究科ごとに学生の受け入れを決定しますので、学位学歴の真偽については、日本語学校で行われているほど、確定的に審査できている状態ではないような気がします。

●では、今回の制度によって日本語学校を経由せずに学部から直接入学してくる中国人学生は増加するでしょうか。

中国の場合は、規則上外国の大学が中国で直接入学試験をやることはできないことになっているそうです。そうすると、書類審査か日本での試験が必要となります。書類審査で学位、学歴ばかりでなく、成績なども確定的に見ることができるになれば、当然今まで以上に直接入学は容易になるはずです。そういう意味では日本語学校がこのシステムを開発しておきながら、大学に提供するというのは、自分の首を絞めることになるかもしれません。ただ、目指すところは「留学生30万人」ですから、日本語学校経由ばかりではなく、大学等による直接募集、直接入学許可など、いろいろなチャンネルで留学生の募集経路を開発しないと、達成できない数字でしょう。

●いずれにしても大学側にとっては、ビザ申請に関わる手間が大幅に軽減され、これまで

以上に積極的に中国人留学生の受け入れを検討することができるということですね。

これまで本物かどうか、偽造ではないかということで、その判断に時間をかけてきたわけですが、これが無くなるというのは関係者にとっては画期的なことだと思います。しかし、大学にとっては事務的な作業がひと手間多くなることですし、もともと中国の学歴証書の真偽についてそれほど意識をしていない大学もあります。また、なんで中国の学生だけ特別な書類を要求するのか、という疑問も出てくるでしょう。しかし、このような卒業証書などの真偽判断は中国の国内でも大きな問題となっていて、その対策として中国教育部が学生の就職先企業のために学生の卒業証書が本物かどうか、インターネットを通じた参照サービスを行っているほどです。日本で考えられる一般的な対応で対処できる問題ではないと考えてよいでしょう。

●どのくらいの大学がこのシステムを利用するでしょうか

利用してもらえるかどうかと言うのは、もちろん各大学の留学生受入れ状況や判断に依りますが、私たちが行ったアンケート調査では、JAFSA 会員である199大学のうち、およそ50の大学が早く参加したいという意思表示をしています。今後多くの大学に参加していただけるよう、各大学に働きかけていきたいと考えています。また、JAFSAの会員大学関係者によってさらに研究を重ねていただきたいと思っています。

(終)